



不確実性の時代における 産業力強化

東レ社長

大矢光雄

おおや みつお

地

政学リスクの継続、エネルギー・資源制約の深刻化は、グローバルな事業環境に大きな変化をもたら

しており、不確実性は一層高まっている。また、温暖化等の地球環境問題、世界人口の増加、水不足等は深刻さを増しており、産業構造のみならず、雇用や暮らしのあり方にも影響を及ぼす、社会全体の根本的な転換を伴う課題である。

このような環境下において、先端素材を扱い、国内外に生産拠点を有する製造業の経営に携わる者として、産業界は、今日社会が直面する多くの課題の解決に貢献していく責務があると考えている。そして、それには、個社の努力にとどまらず、産業界全体として、国や地域ごとの制度や事情の違いを踏まえつつ、環境対応、安定供給、競争力の確保をいかに並立させていくのか、また、原材料の調達から製造、加工、使用、循環に至るまで、サプライチェーン全体をいかに強化していくのかなど、実効性ある対応が必要となる。

これらの課題に対応していくためには、

社会全体の持続性を高めていくことが不可欠であり、その実現に向けては短期的な成果にだけとらわれるのではなく、長期的な視点が求められる。経済価値と社会価値の両立を見据え、長期的な視点に立った技術・人材への投資を継続するとともに、現場に根差した知見から、解決策を導いていくことが重要だと考える。さらに、立場や業種を超えた対話を通じて、方向性を共有することが、不確実性の高い時代において、取り組みを着実に前進させる基盤となるであろう。大企業のみならず、中小企業や地域社会を含めた幅広い連携が求められている。

経団連は、産業界の英知を結集し、実効性ある政策提言と社会との建設的な対話を通じて、日本の進路を内外に示す重要な役割を担われている。このたび審議員会副議長および人口問題委員長を拝命したが、経団連活動を通じて、会員の皆さまと連携しながら、日本経済と社会の持続的発展に微力ながら貢献したいと考えている。会員の皆さまからのご指導とご助言をお願いできれば幸いである。